

平成27年度 石狩湾系ニシン 漁期前半の状況と今後の見通し

平成28年2月20日 中央水産試験場

1. 漁期前半の状況

今期は解禁からしばらく湾沿岸での漁獲はありませんでしたが、1月下旬に入り小樽沿岸から水揚げが本格的になっていきました。漁期前半（1月10日～2月10日）の、東積丹を含む石狩湾の総漁獲量は837トン（指導所集計に基づく暫定値）と、昨年を若干下回る値となっています。各地区の漁獲量を2010年以降（資源高水準期）と比較すると、東しゃこたん・余市方面では昨年を上回っているものの以前と比べると今期も低水準傾向、小樽、石狩、厚田地区は、解禁後から漁のあった昨年より下回るものの、比較的好調な漁模様で推移しています。

2月10日時点までの漁獲物の特徴は、今期最も来遊尾数が多いと予測されている4年魚（2012年級）が重量比で全体の31%を占め最多ですが、5年魚、7年魚以上（2009年級主体）もほぼ同程度の割合を占めており、270g前後の4年魚から300g台前半の5年魚、そして500gを超えるような大型ニシンまで、幅広いサイズで来遊、漁獲されているのが今期の特徴です。

今期ひとときわ目を引く超大型ニシンは、昨年までの3年間漁獲を牽引した2009年級群（7年魚）やその前の卓越年級である2006年級（10年魚）であり、今後、何歳まで漁獲が続くのか楽しみです。高齢・大型ニシンは例年なら1月末には産卵を終え沖に戻りますが、今期は2月半ばまで産卵せず厚田方面に滞留しているものが多いという異例の展開となりました。一方、大型ニシン狙いのため使用される網目が大きい傾向があり、最も来遊尾数の多い4年魚は網から抜け、予想より漁獲がのびないという状況です。

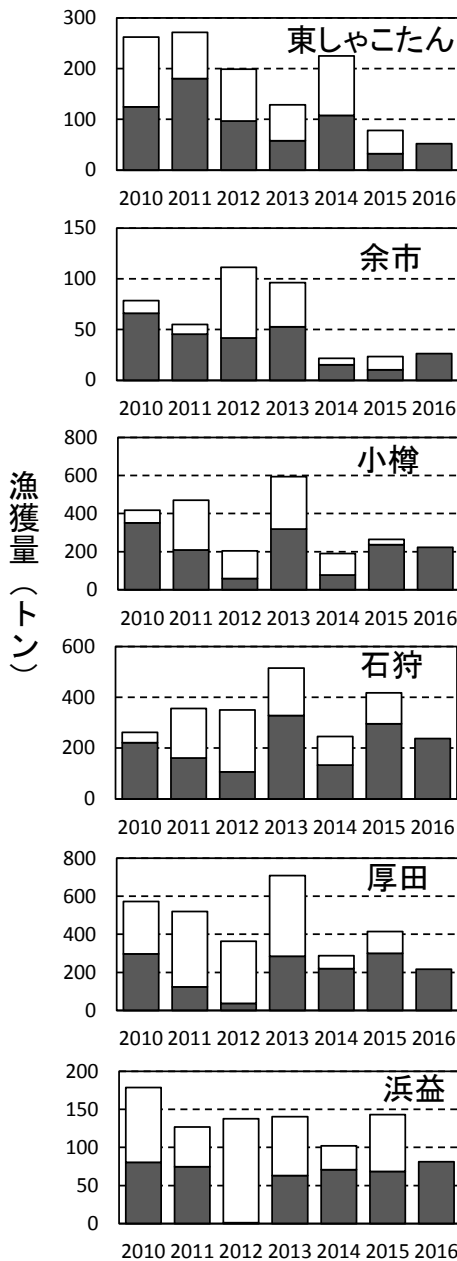


図1 湾内各地区の漁獲量
 ■: 1月10日～2月10日 □: 2月11日～3月末

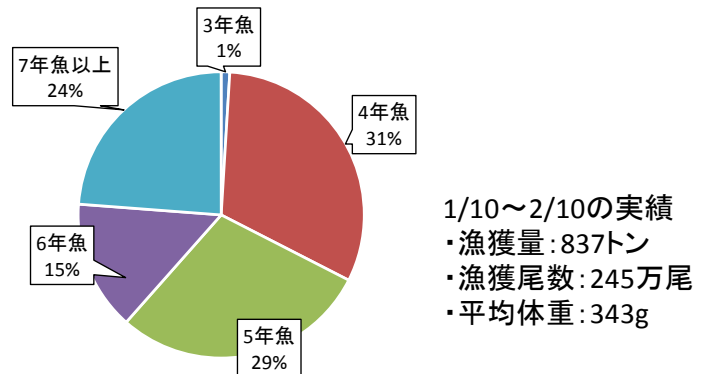


図2 2月10日時点までの漁獲物重量比(2016年)

1/10～2/10の実績
 ・漁獲量: 837トン
 ・漁獲尾数: 245万尾
 ・平均体重: 343g

2. 今後の見通し

湾沿岸の浜回りや漁獲物調査で受けている印象では、序盤の主役となった大型ニシンは2月半ばまでに厚田方面に集群し断続的に産卵を終え徐々に数が減っている状況であり、現在は小樽～余市方面に4年魚の分布が比較的濃く、結果的に石狩新港周辺に分布する魚がやや薄くなっている状態のように考えられました。ただしこれは今後の海況次第で動いていくものと考えられますので、3月初め頃までは4年魚が湾沿岸でどのように展開するのかが各地区の漁模様を左右しそうです。今期前半までは産卵場の底水温がやや低め（4℃未満）で推移し、これが大型ニシンに産卵を躊躇させた一因になっているのではないかとみていますが、2月17日時点で小樽方面は水温5～6℃まで昇温しており、今後は小樽方面でもシケの合間には4年魚も続々と産卵し沖に戻っていくのではないかと考えています。

一方、3月以降の来遊となる3年魚（2013年級）については、これまでの調査であまり資源量が多くない年級とみられており、近年の傾向である2.0寸目合でも抜けるといった魚体の小型化傾向と相まって、終盤の漁を大きくのばすような貢献は、今のところ今年も期待できないと考えています。